

平成23年7月29日(金)

地域とともにある学校づくり

京都市教育委員会
首席指導主事

学校指導課
西 孝一郎

1 コミュニティ・スクールに至る道

2000
(平12)

教育改革国民会議

コミュニティ・スクール設置の可能性を検討

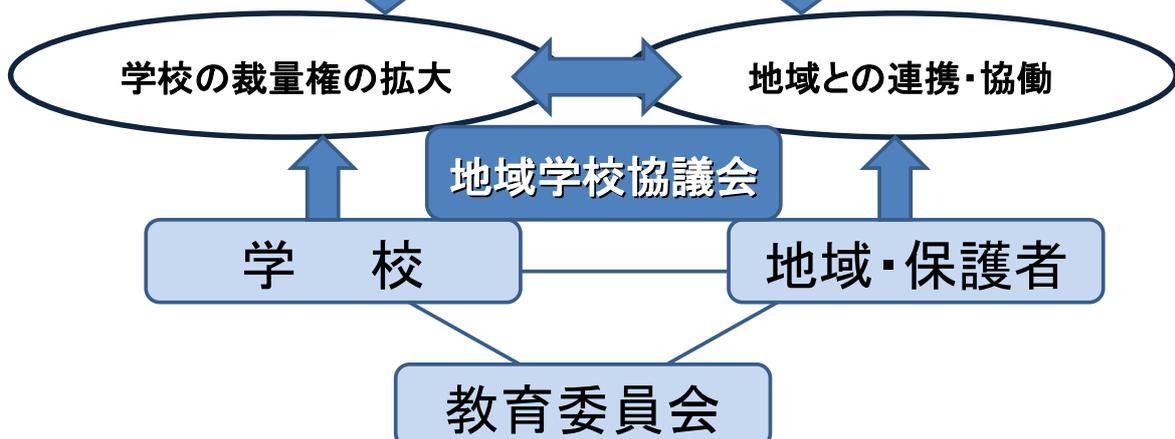
2001
(平13)

総合規制改革会議

コミュニティ・スクール導入の実践研究を提言

2002
(平14)

新しいタイプの学校運営の
在り方に関する実践研究



1 コミュニティ・スクールに至る道

学校運営の研究

？

地域学校協議会

「子どもに返る」活動にしたい

みんなが活動できるようにしたい

活動を通して「学校理解」→学校評価

イギリスの学校理事会

+

アメリカのボランティア

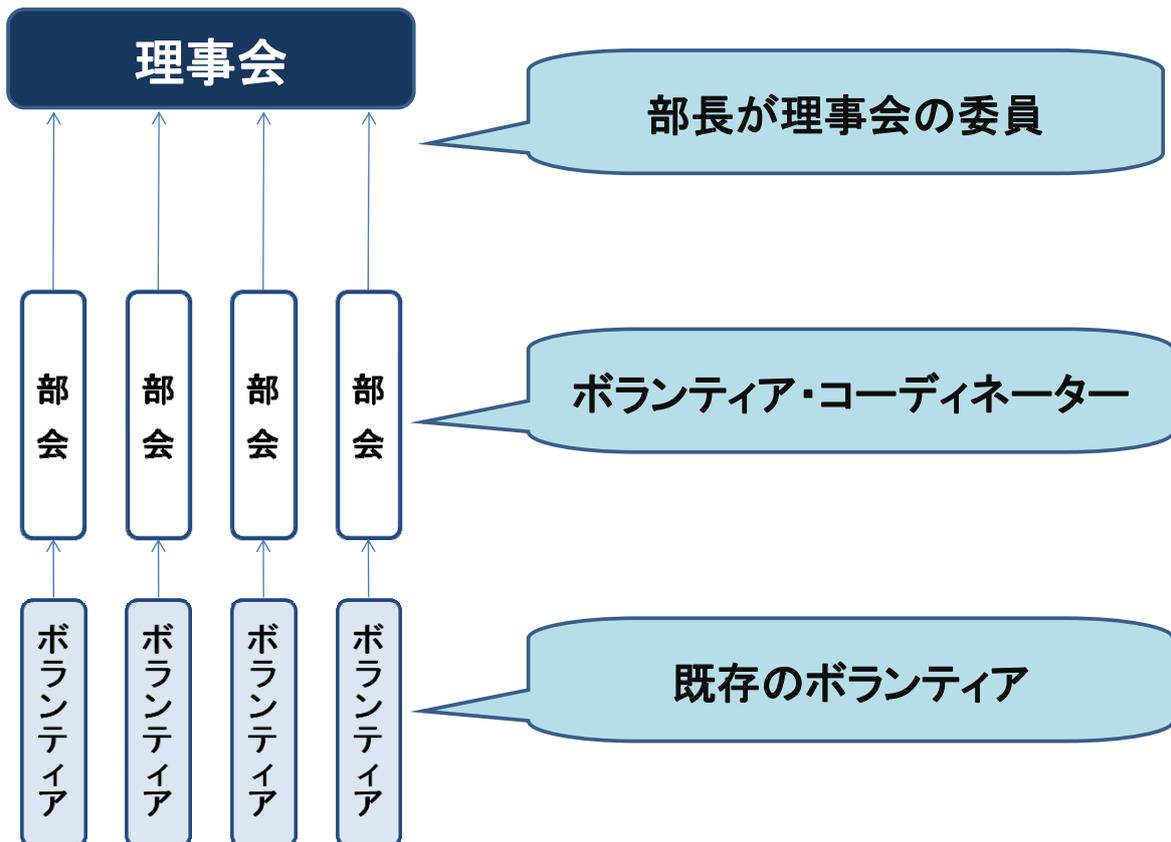
理事会

+

学校支援ボランティア

みんながわかる「仕組み」に

2 コミュニティ・スクールの仕組みづくり



2 コミュニティ・スクールの仕組みづくり

ボトムアップ型

メンバーを決める

部の代表者が理事会(学校運営協議会)委員

各部会 6～8名のメンバー

自治連合会長
(9人)

地域団体の代表
(輪番で)

PTA役員
(元役員を含む)

公募委員

ほぼ決まっている人

各ボランティア
代表

PTAの専門部
代表

公募委員

年度ごとに決まる人

2 コミュニティ・スクールの仕組みづくり

御所南コミュニティ

12人の部長による理事会 (後の「学校運営協議会」)

地域コミュニティ委員会

幼小中コミュニティ委員会

スクール・コミュニティ委員会

町づくり部会

スポーツ部会

福祉部会

文化部会

図書館部会

コンピュータ部会

ジュニア部会

国際部会

環境部会

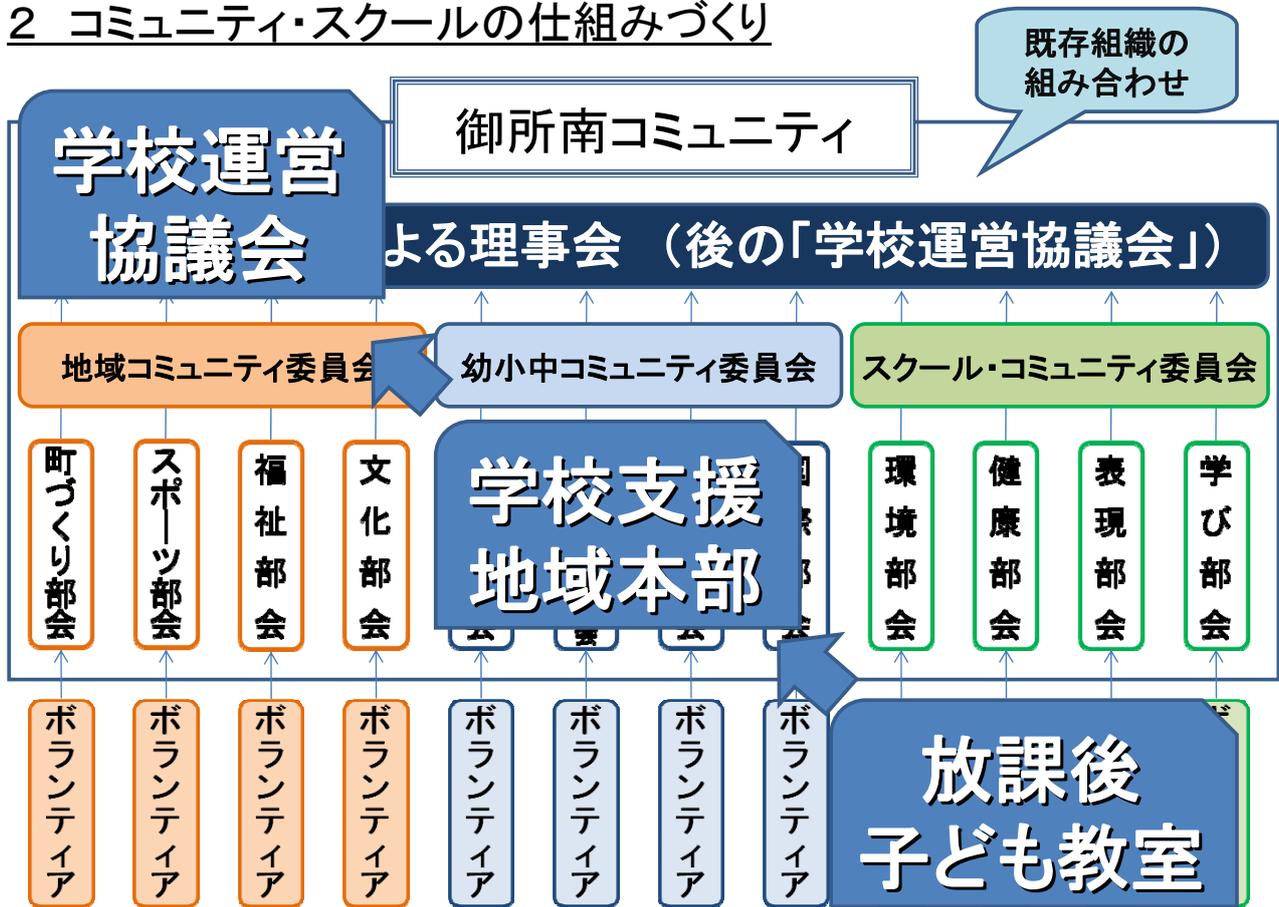
健康部会

表現部会

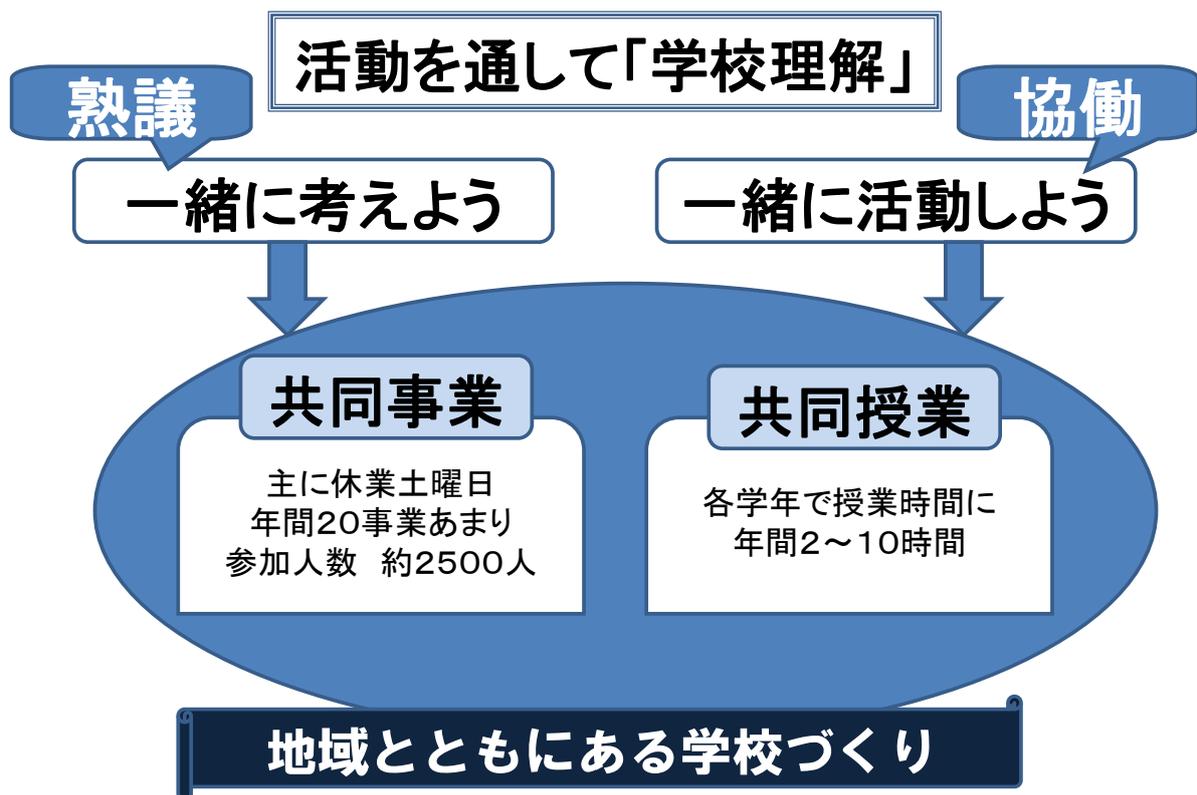
学び部会

ボランティア

2 コミュニティ・スクールの仕組みづくり



3 コミュニティ・スクールのスタート



3 コミュニティ・スクールのスタート

コミュニティの運営

会議はみんなで

年間7~8回
教職員と共同で運営
部会の温度差をなくす

会議の時間

全体会・・・20分
12の部会・・・1時間
3つの委員会・・・30分
事務連絡・・・10分



地域との連携事業など
京都市に申請したもの

基本的にボランティア

運営の資金



3 コミュニティ・スクールのスタート

共同事業や共同授業

地域コミュニティ委員会

文化

福祉

スポーツ

町づくり



3 コミュニティ・スクールのスタート

共同事業や共同授業

幼小中コミュニティ委員会

国際

ジュニア

コンピュータ

図書館



3 コミュニティ・スクールのスタート

共同事業や共同授業

スクールコミュニティ委員会

学び

表現

健康

環境



4 コミュニティ・スクールが生み出したもの²⁰⁰⁴
(平16)

地教行法改正

2004(平16)

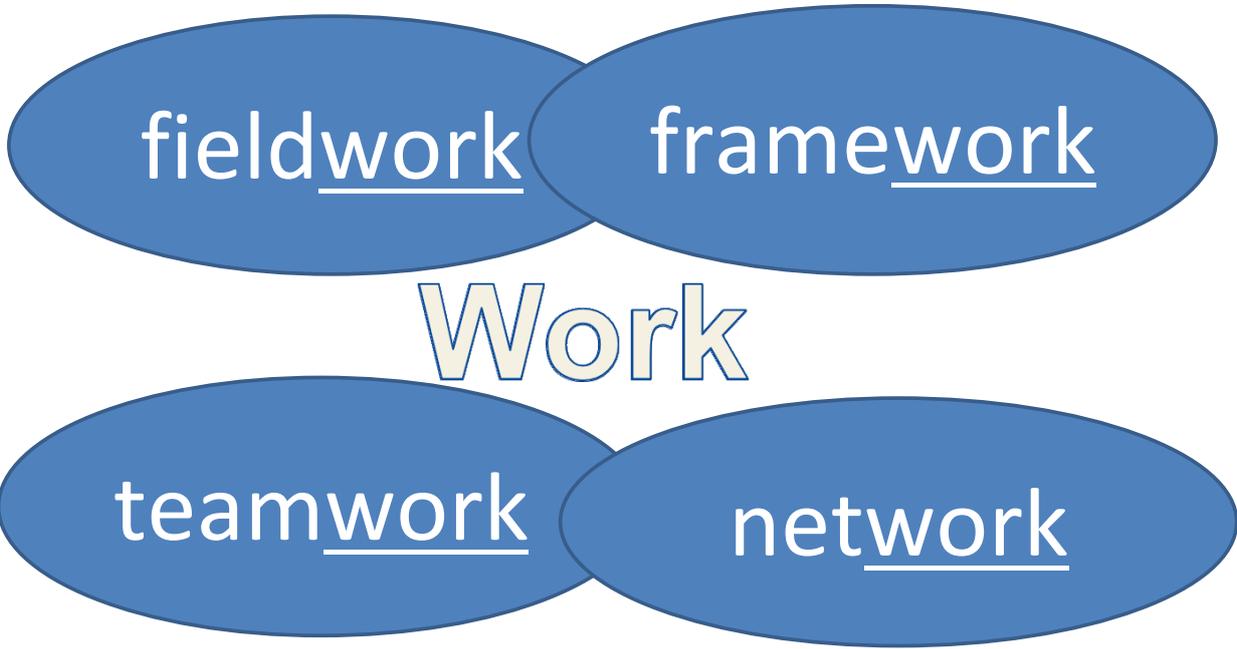


学校運営協議会の活動を充実

- 学校運営方針の承認, 学校予算の承認
- 公募教員, 公募非常勤講師の面接
- 「企画推進委員」の活動総括, 調整

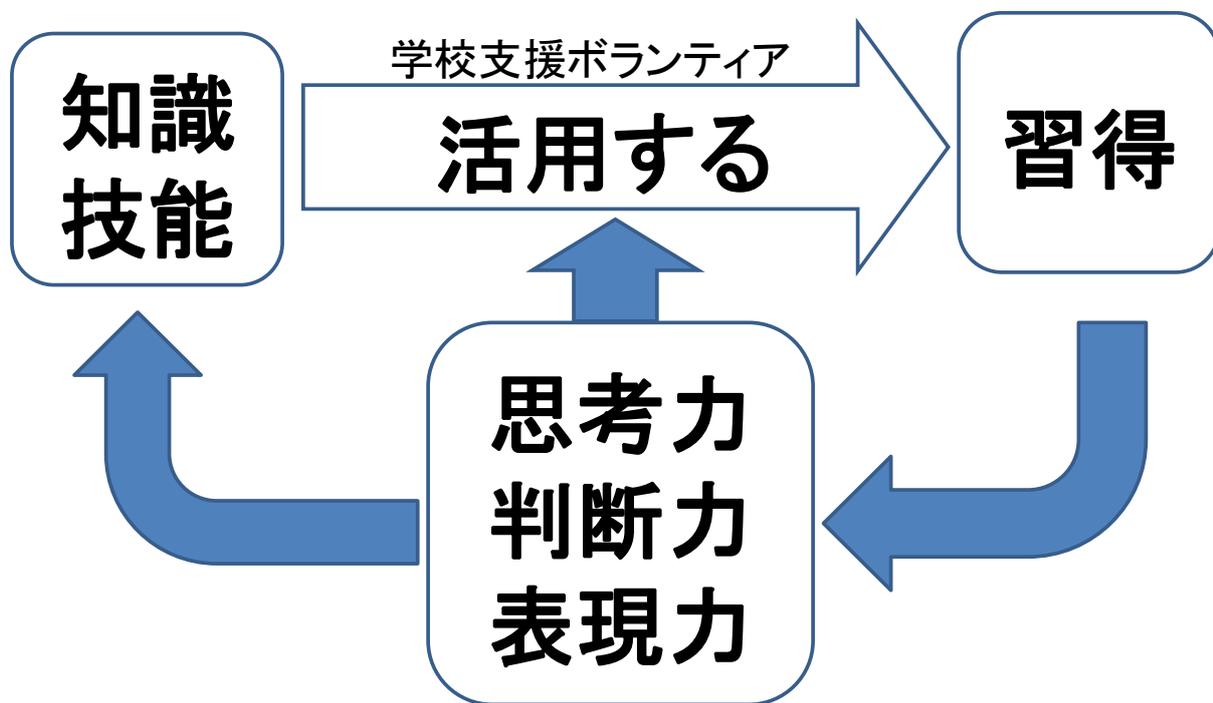
4 コミュニティ・スクールが生み出したもの

活動を通して「学校理解」



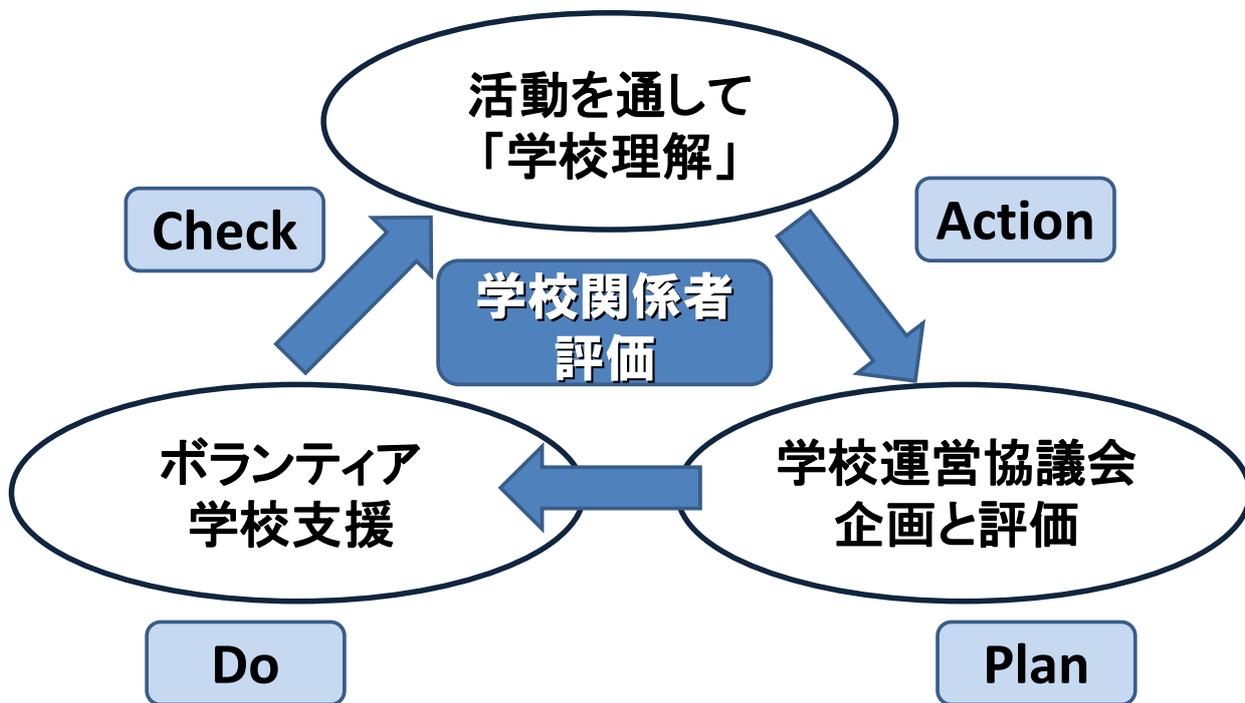
4 コミュニティ・スクールが生み出したもの

「習得→活用」のサイクル



4 コミュニティ・スクールが生み出したもの

学校評価のサイクル



4 コミュニティ・スクールが生み出したもの

広がる学校運営協議会

京都市における学校運営協議会の現状

校 種	京都市の学校運営協議会 設置校数	京都市全体の学校に対する 割合
小学校	139校	80.3%
中学校	23校	31.5%
総合支援学校	5校	71.4%
幼稚園	8園	50.0%
高等学校	0校	0.0%
計	175校・園	61.0%

平成23年7月1日現在

4 コミュニティ・スクールが生み出したもの

共に活動し、学校が好きになる

学校が好きな地域の人

学校が好きな保護者

学校が好きな子ども
(帰属意識が高い)

学力が高い

4 コミュニティ・スクールが生み出したもの

広がるボランティア

多くの学校支援ボランティア

学校支援地域本部事業

各中学校ブロックで
学校支援ボランティア

放課後子ども教室推進事業

全小学校区
1～6年全児童対象で実施
週3～5回
児童館・学童クラブ事業との
連携・共同

19

5 コミュニティ・スクールの課題

熟議

学校運営に関する基本的な方針
の
検討と承認

定期的な学校関係者評価

学校支援ボランティアの
活動を調整

協働

活動を学校理解につなげる

学校・家庭・地域それぞれが
当事者意識をもつ

コミュニティ・スクールは
子どもを変える取組という意識

継続するシステムに

安定を目指しつつ、誰もが
できる組織に
継続と更新のシステムづくり

5 コミュニティ・スクールの課題

